

埼玉の豊かな 水とみどりを 守り育む分科会



～水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた検討部会～

部会における背景・課題等について

川の国埼玉の将来像

魅力的な水辺空間が県民の大切な財産として守り育てられ、人々が賑わう埼玉の豊かな川



人々の賑わいのみで、自然環境や生物多様性をおろそかにして

「川の国埼玉」の実現はない

調節池をテーマに保全と利活用の両面を検討

令和6年度の取組み内容について

「利活用×環境保全」をテーマに、水質改善や環境保全を考えるプロジェクトを実施

プロジェクトチーム	活動概要
大相模調節池PT	高校生による水質改善×水辺空間活用にむけたアイデア検討
自然共生サイトPT	大森・水谷調節池における自然タイプ調査・維持管理メニュー検討
調節池利活用PT	民間による商業利用促進に向けた取り組みの検討

構成メンバー(7者)

(一社)近未来ハイスクール NPO法人越谷市カヌー協会
(公財)埼玉県生態系保護協会 (株)埼玉りそな銀行 (株)地域デザインラボさいたま
レイクアンドピース(株) 埼玉県河川環境課

※その他協力企業・団体等多数

埼玉版 SDGs 官民連携プラットフォーム水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた部会

近未来
ハイスクール

水辺 の 科学 と 学習





近未来ハイスクール

変人と高校生・高専生を
つなぐキャリアと探究の
プログラム



レイクタウンを学びのフィールドへ



レイクタウンを学びのフィールドへ

水辺を科学する



レイクタウンを学びのフィールドへ

水辺を科
学する

水辺で
妄想する



レイクタウンを学びのフィールドへ

水辺を科
学する

水辺で
妄想する

水辺で
つくる

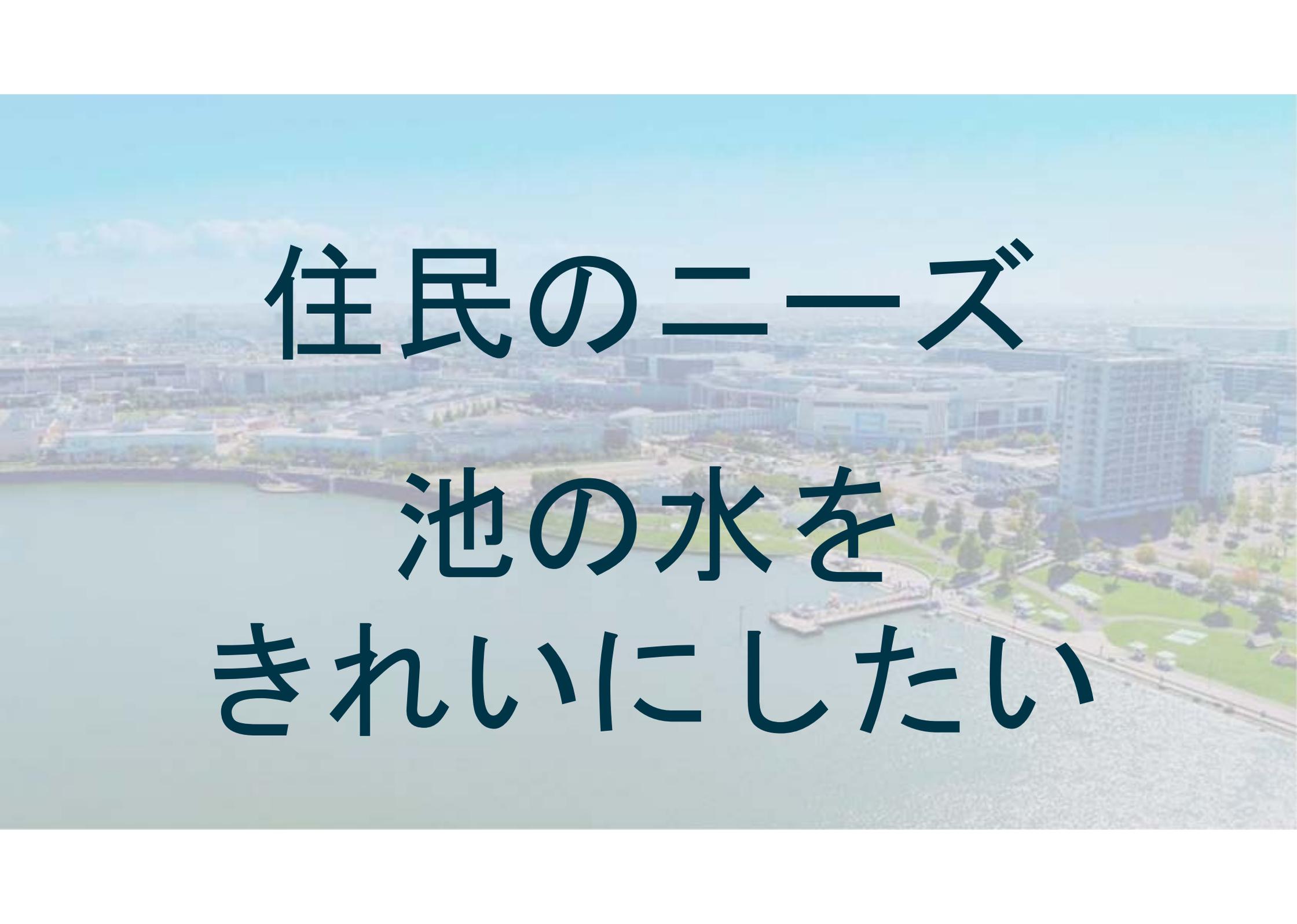
テーマ

ショート動画をつくる

第1回	7/15	水辺の科学	水質浄化	動画のつくりかた 1
第2回	8/25	水辺の学習	生物多様性	動画をつくってみる 2
第3回	10/14	水辺の発想	にぎわいアイデア	絵コンテから動画をつくる 3
第4回	1/26	水辺の起業	妄想をビジネスに	

住民のニーズ

An aerial photograph of a modern city with a waterfront. The foreground shows a large body of water with a small pier and a few boats. The middle ground features a mix of modern buildings, green spaces, and parking lots. The background shows a dense urban area under a clear blue sky.



住民のニーズ
池の水を
きれいにしたい

レイクタウンを学びのフィールドへ

水辺を科学
する



東京科学大学 吉村研究室

水環境保全を考える
池の水を濾過する



浮く畑
&
プランツクリエイター

空芯菜を収穫する



A man in a light blue shirt is kneeling on a paved surface, demonstrating a water purification device. The device consists of a clear plastic container with various tubes and components. He is gesturing with his hands as he speaks to a group of people, some of whom are wearing white lab coats. The background shows a light-colored brick wall. The scene is outdoors and well-lit.

NTT東日本

**池の水を浄化する機械
のデモをみる**

News Release

つぎのミライは、
あなたの街から
はじまる。

NTT東日本グループ

2024年8月27日

東日本電信電話株式会社 埼玉南支店

高校生が社会課題解決アイデアやビジネスを考える 「近未来ハイスクール『水辺の科学と学習』」が越谷レイクタウンで開催！ ～NTT東日本は“災害時に水を浄化する仕組み”を講義・実演～

東日本電信電話株式会社 埼玉南支店（支店長：霜鳥 正隆、以下「NTT東日本」）は、越谷レイクタウンにて8月25日（日）、埼玉県などが主催するワークショップ「近未来ハイスクール 水辺の科学と学習^{※1}」の第二回「水辺の学習～生物多様性と企業活動」において、持続可能なビジネスを考えるための「生物多様性や環境についての講座」に登壇し、水を浄化するデモンストレーションや講義を行いました。ワークショップでは、参加した高校生が、各分野のプロからの講義やアドバイスや水辺での体験などを基に、様々な事業化アイデアを考えました。

※1：「水辺の科学と学習」ワークショップ：

（主催）埼玉県/埼玉版 506s 官民連携プラットフォーム水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた部会

（概要）https://www.kinmirai.co/2024/06/202407-gakusyu_kagaku/

<当日の様子>



水浄化のデモンストレーションで、浄化の仕組みや浄化状況データの遠隔把握・活用の説明を行いました

FOMM

水陸両用車を試乗する



環境省

生物多様性を学ぶ



大相模どうぶつ病院

レイクタウンの
生物たち

「撮り」愛好家

上がりますエキゾチックアニマルの中でも
特に鳥を診察する獣医は野鳥を取ること

- ・ ツバメ
- ・ キジ
- ・ ムクドリ
- ・ ヒヨドリ
- ・ カワラヒワ
- ・ メジロ
- ・ シジュウカラ
- ・ サギ科
- ・ カモ
- ・ カイツブリ



A person wearing a blue and white life vest is paddling a blue and yellow Hobie kayak on a large body of water. The water is dark blue with some ripples. In the background, there is a shoreline with several buildings and trees under a clear blue sky. A semi-transparent grey box is overlaid on the left side of the image, containing Japanese text.

調査船

足漕ぎボートHobieで
池の採水にむかう

A person wearing a blue jacket, glasses, and a white face mask is shown from a high-angle perspective, leaning over the side of a boat. They are using a white plastic scoop to transfer water from the lake into a blue bucket. The boat's interior is yellow and blue. The water is a brownish-green color. A semi-transparent white box with text is overlaid on the left side of the image.

採水ポイント1

池の中央



採水ポイント2

浮く畑

レイクタウンを学びのフィールドへ

水辺で
妄想する

東京科学大学

大相模湖前池の水質を科学的に考える

水の調査結果をもとに
水質を科学的に考える

吉村 千洋・林 優斗
東京科学大学



埼玉大学

海外の水辺の
スタートアップ
最新事情



ワークショップ

水辺のビジネスを
妄想する



アイデア名

うなぎの養殖をブランド化したレイフタウンのブランディング案

環境・経緯

【レイフタウンの「まち」としての特徴】

アイデア

- うなぎの養殖でブランディング
- 水質浄化の経過をたまごっち的なアプリで表現
ほか

ビジネスの影響

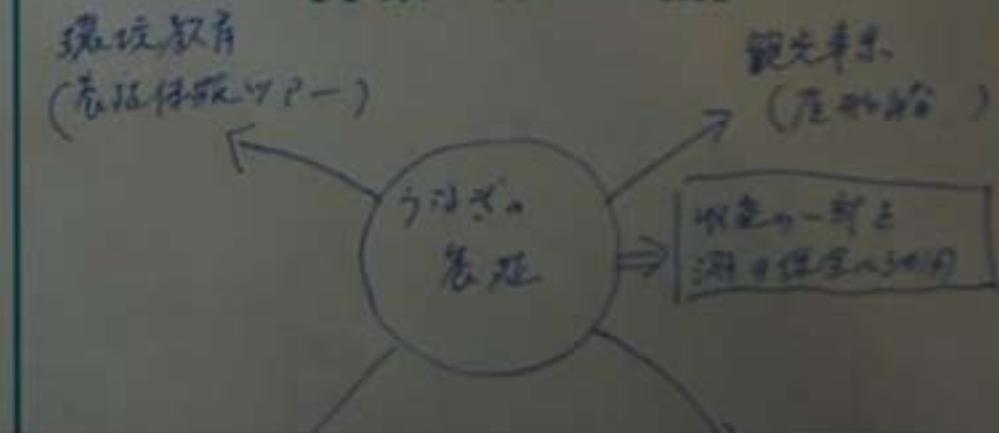
【地域に与える影響はあるか】

- ・ 地産ブランド化による産地活性化
- ・ 環境保全の財源確保

【SDGsのどのゴールにつながるか】

- ・ 地域活性化
- ・ 環境保全の持続可能な消費

【事業のイメージ図】



レイクタウンを学びのフィールドへ

水辺で
つくる



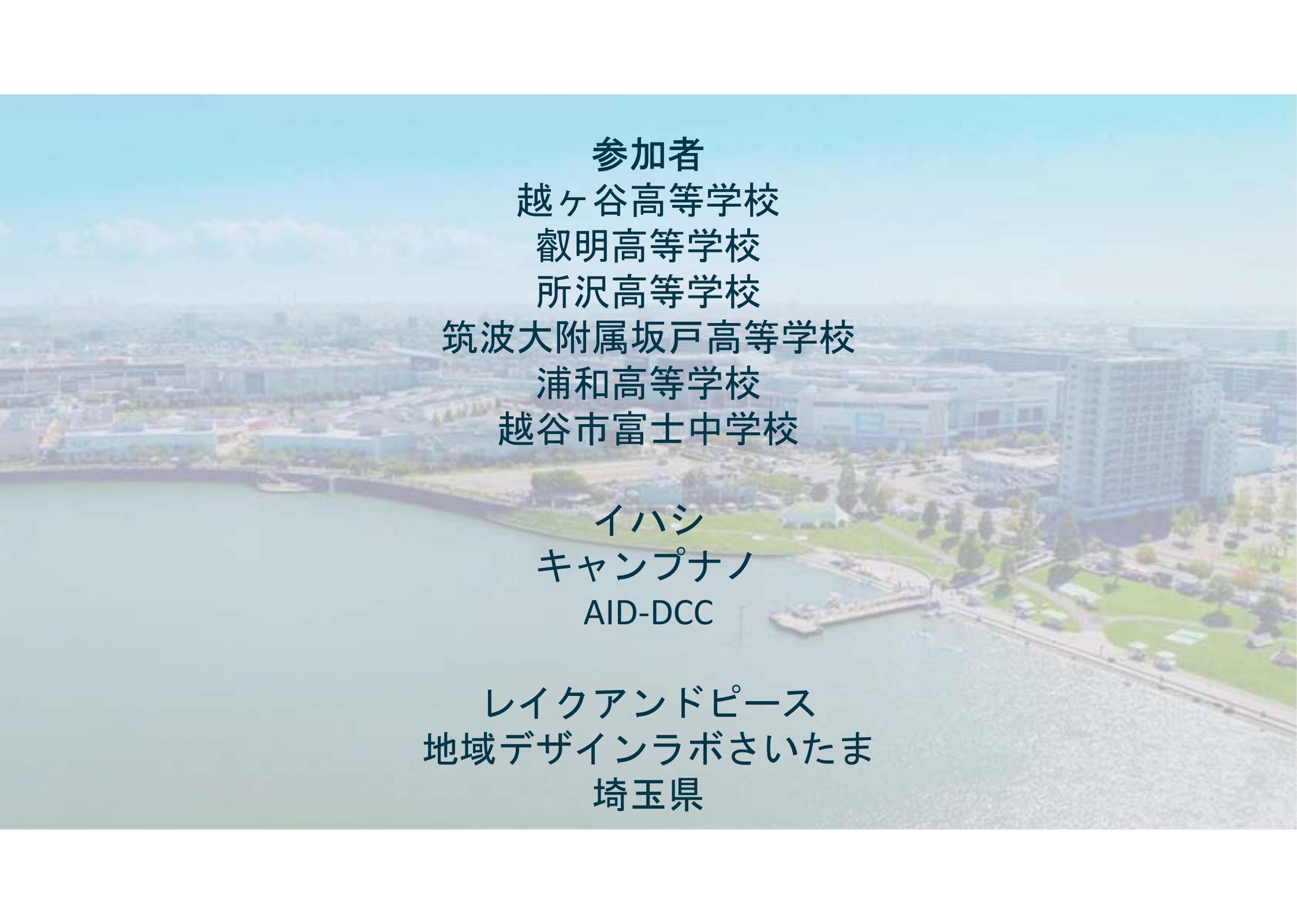
Youtuber

ショート動画をつくる

Youtuber

ショート動画をつくる





参加者

越ヶ谷高等学校

叡明高等学校

所沢高等学校

筑波大附属坂戸高等学校

浦和高等学校

越谷市富士中学校

イハシ

キャンペナノ

AID-DCC

レイクアンドピース

地域デザインラボさいたま

埼玉県



越谷レイクタウンを

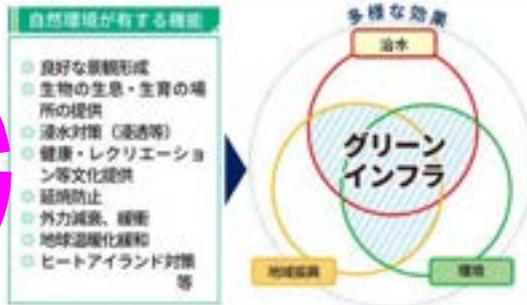
環境を学ぶ

探究・実証実験の聖地へ

自然共生サイトPTの活動

グリーンインフラとしての多重防御治水

多重防御治水の実現
と
環境・地域振興の実現の
両立を目指す



三位一体の対策 流域	1	河道 の流下能力の向上 ○土砂掘削、樹木伐採 ○堤防整備（掘削土を活用）	イメージ図 	河道 流域	1	河道 のコリドー機能の向上 ○多自然川づくりの徹底 ○自然再生事業との連携
	2	遊水・貯留機能 の確保・向上 ○遊水地の整備 ※外水（国管理河川・県管理河川など）、内水の両方に 対応する遊水地（既存/ハイブリッド型遊水地）を検討 ○既存ダムの洪水調節機能強化			2	遊水・貯留機能 のウェットランドの創出 ○初期湛水池等の水域の活用 ○既存自然地・農耕地の保全
	3	土地利用・住まい方 の工夫 ○土地利用制限（災害危険区域の設定等） ○家屋移転、住宅の嵩上げ ○高台整備（避難場所等に活用） ○内水対策の検討			3	被災形態選択区域 の環境保全 ○既存自然地・農耕地の保全 （自治体等と連携して実施） ○エコツーリズム・環境学習等への 場の提供

・多自然川づくり
・掘削と併せたウェットランド創出
・初期湛水池等のウェットランド化等
・既存自然地・農耕地の保全

※各地域の特性に合わせてメニューを検討

多重防御治水の実現

エコロジカル・ネットワーク形成

地域振興の実現

出典：
国交省関東地方整備局河川部、
2020年1月31日記者発表資料

関東4水系における「緊急治水対策プロジェクト」を踏まえ、河道掘削、堤防整備、遊水地整備等を実施します

自然共生サイトPTの活動

「生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方」 提言概要 別紙1

現状

- 平成9年の河川法改正により、治水などと同様に、河川環境の整備と保全が目的に位置づけられたことをはじめ、河川行政においては、多自然川づくりなど、様々な河川環境施策を進めてきた
- 今後は、従来の河川環境施策に加え、近年の社会経済情勢等の変化を踏まえた充実が必要



今後の河川整備等のあり方

河川における取組	流域における取組
<p>(1)河川環境の目標</p> <p>治水対策と同様に、河川環境についても目標を明確にして、関係者が共通認識の下で取組を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生物の生息・生育・繁殖の場」を河川環境の定量的な目標として設定 ・河川整備計画へ河川環境の定量的な目標を位置づけ、長期的・広域的な変化も含めて評価 ・河川や地域の特性を踏まえた目標の設定 など 	<p>(1)流域連携・生態系ネットワーク</p> <p>流域治水の推進を通じた、流域が連携して取り組む機運の高まりを、流域の環境保全・整備にも展開</p> <p>流域治水の取組とあわせ、グリーンインフラの取組を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生態系ネットワーク協議会の取組の情報発信・共有 ・関係機関と連携した環境データの一元化や共同研究の促進 など
<p>(2)生物の生息・生育・繁殖の場を保全・再生・創出</p> <p>蓄積された知見や社会経済情勢等の変化を踏まえ、全ての河川を対象に、多自然川づくりを一層推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査、モニタリング等を通じ順応的に管理 ・災害復旧や施設更新を、ネイチャーポジティブを実現する機会と捉え、環境も改善 など 	<p>(2)流域のあらゆる関係者が参画したくなる仕組みづくり</p> <p>ネイチャーポジティブの動きや民間企業の環境意識の高まりを踏まえた仕組みづくりを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業等による流域における環境活動の認証、官民協働に向けた支援や仕組みの充実 ・利用しやすい環境関連データの整備と情報発信 など

出典：
国交省水管理・国土保全局河川環境課、
2024年5月24日公表資料

「ネイチャーポジティブを実現する川づくりを進めます
～有識者による検討会の提言～」

自然共生サイトPTの活動

『自然共生サイト』について



自然共生サイトとは

ネイチャーポジティブの実現に向けた取組の一つとして、環境省では、企業の森や里地里山、都市の緑地など「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」として認定する取組を令和5年度から開始しました。認定区域は、保護地域との重複を除き、OECM (Other Effective area-based Conservation Measures: 保護地域以外で生物多様性保全に資する区域) として国際データベースに登録され、30by30目標の達成に貢献します。

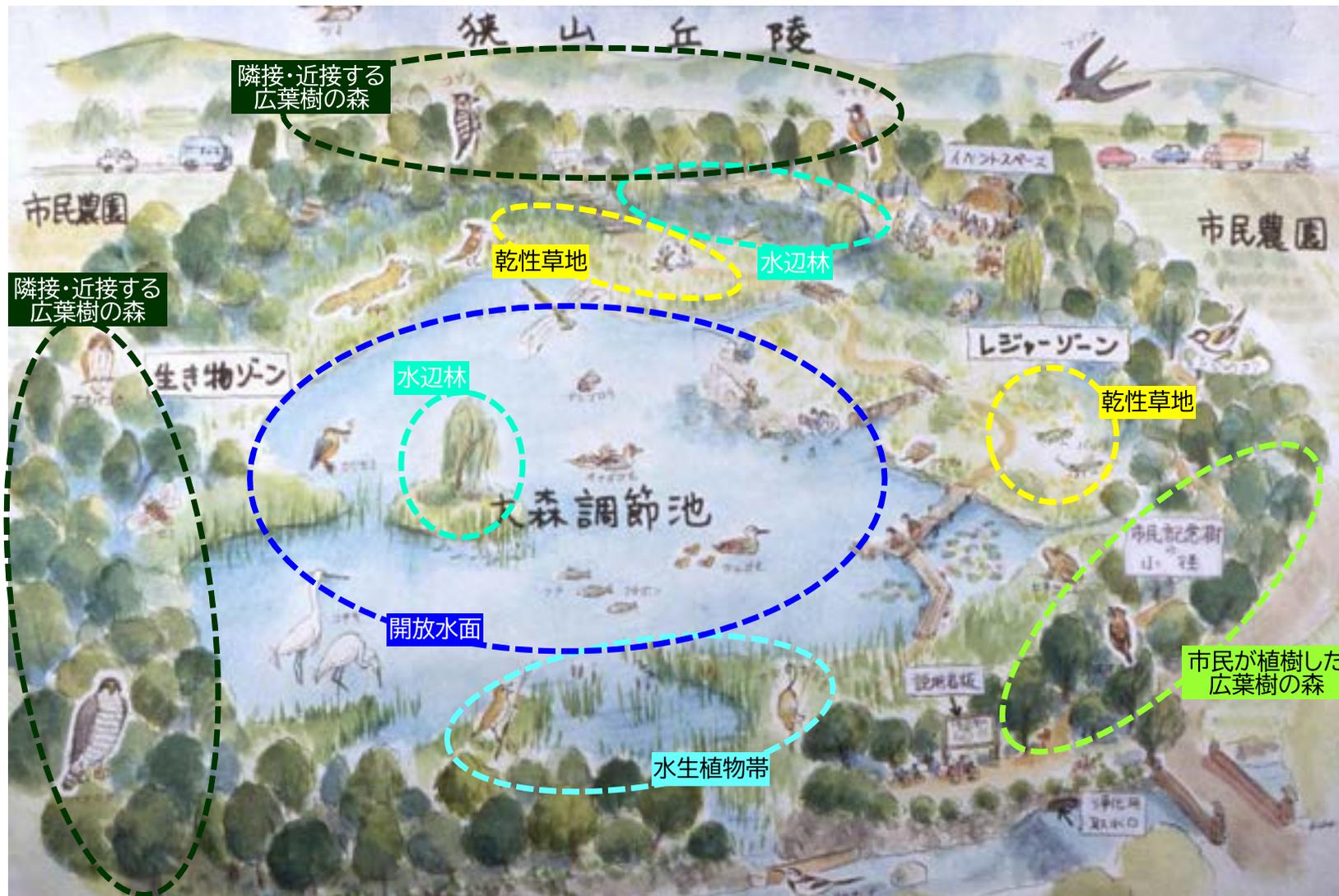
- 「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を保護地域内外問わず『自然共生サイト』に認定。
- 「自然共生サイト」に認定された区域のうち、保護地域との重複を除いた区域を『OECM』として登録。

出典：
環境省資料

大森調節池(供用済み)における取組



大森調節池(供用済み)における取組



出典：
埼玉県生態系保護協会
入間支部webサイト

整備初期に描かれた
大森調節池の目標像

大森調節池(供用済み)における取組



飯能県土整備事務所提供

ドローン画像
(2023年9月撮影)

大森調節池(供用済み)における取組



飯能県土整備事務所提供

ドローン画像
(2023年9月撮影)

大森調節池(供用済み)における取組



飯能県土整備事務所提供

ドローン画像
(2023年9月撮影)

大森調節池(供用済み)における取組

埼玉県での市民連携プラットフォーム「水辺の自然を大切にする会」の活動拠点として、大森調節池の自然を大切にする会が主催するワークショップ。

～人を守り、生きもので賑わう大森サントリアリ～

大森調節池のお手入れと生きものウォッチング

大森で池に入って、岸の高い草を利用し、水辺の自然を観察します。
洪水時には私たちの生命と財産を守り、普段は生きもの豊かな場所となる大森調節池を、市民・企業・行政のパートナーシップで守りつなぐ活動です。



特別体験 参加費無料

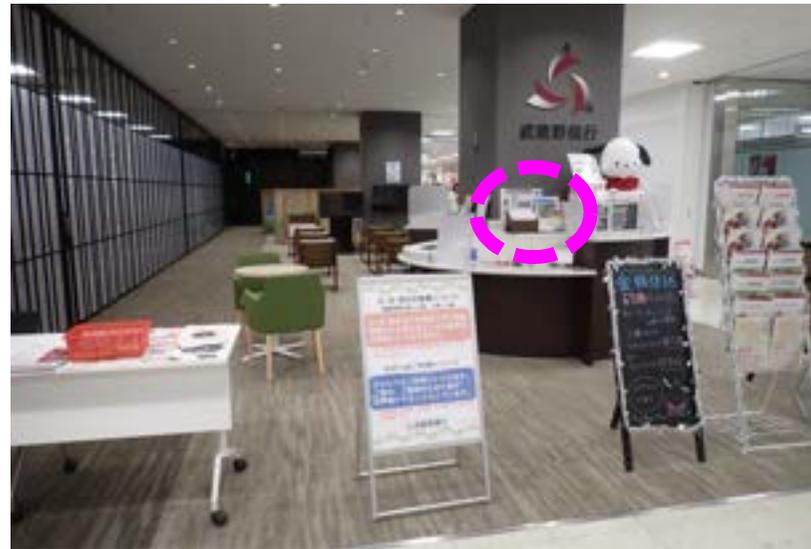
2025年2月1日(土) 9:15～12:00
 ※雨や雪の場合は、2月9日(日)に顺延

【集合】入間市老人福祉センター「やまゆり荘」入口
 (入間市宮寺 2655-1)
 ※受付後、徒歩400mの「大森調節池」へ移動します



■定員 先着30名 ■持ち物 長靴、汚れてもいい服装、軍手、マスク、飲み物
 ■お申込み・お問合せ ecositama.volunteer@ecosys.or.jp
 (公財)埼玉県生態系保護協会

【主催】(公財)埼玉県生態系保護協会
 【協力】大森調節池の自然を考える連絡会、埼玉県(環境部・農林部・国土建設部)、河川環境課



武蔵野銀行・入間支店
(丸広百貨店・入間店内)



大森調節池(供用済み)における取組



■2025年2月1日(土)

調節池の治水機能を維持し、かつ開けた水面を確保して、多様な水辺環境を保全するために、市民・企業・行政の連携で、ヨシ・ガマなどの植物を刈って運び出すワークショップを開催

大森調節池(供用済み)における取組



■2025年2月1日(土)

調節池の治水機能を維持し、かつ開放水面を確保して、豊かな水辺環境を保全するために、市民・企業・行政の連携で、ヨシ・ガマなどの植物を刈って運び出すワークショップを開催

水谷調節池(整備中)における取組

- 管理者 (川越県土整備事務所)
- 活動団体 (工コさいたま富士見支部, 志木支部)
- 地元自治体 (富士見市)

主な関係主体



水谷調節池(整備中)における取組



当初の整備イメージパース／川越県土整備事務所提供



関係主体による現場立会い(2024年3月実施時)

■2025年2月14日(土) ※予定

池底の掘り方を工夫することで、洪水時には私たちの生命と財産を守り、
普段は生きもの豊かな水辺環境となるよう、市民・行政の連携で、現場立会い・協議ワークショップを開催

調節池利活用PTについて

調節池の現状

少ない活用事例

災害の激甚化により調節池の数は増加する一方で、河川と比べると活用事例は少数

維持管理負担

平時は貯水していない調節池が大半であり、雑草対策等の底面(池の底)の維持管理には人の手が必要

多様な立地特性

全県に分散しており調節池毎に周辺環境が異なることから、活用のハードルが高い場所も多く存在

BBQ等のアウトドアやレジャー施設、スポーツ大会等のイベント会場として広大な調節池に関心を持つ民間事業者が多く存在

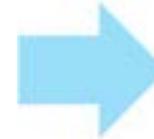
PTの目的

県内調節池の商業利用促進に必要な取組みを、民間・行政双方から意見を集約して整理・可視化する

河川・調節池利活用の先行事例



好事例を横展開



活動内容

WS開催状況

第1回 民間企業意見交換会

調節池の利活用方法について、スポルテック参加企業と意見交換を実施し複数のアイデアを創出



第2回 下忍調節池実地視察会

民間企業による実地視察や先行事例の勉強会や埼玉県・行田市との意見交換を通じて活用イメージを明確化



2024年
7月16~18日

スポルテック

9月5日

第1回WS
意見交換会

10月

第2回WS
下忍調節池
実地視察会

12月

行田市ヒアリング

2025年
2月

シンポジウム
(県イベント)

2~3月

第3回WS
第4回WS

スポルテック出展

【日時】

2024年7月16日(月)～18日(水)の3日間

※出展時間:各10時～17時

【出店内容】

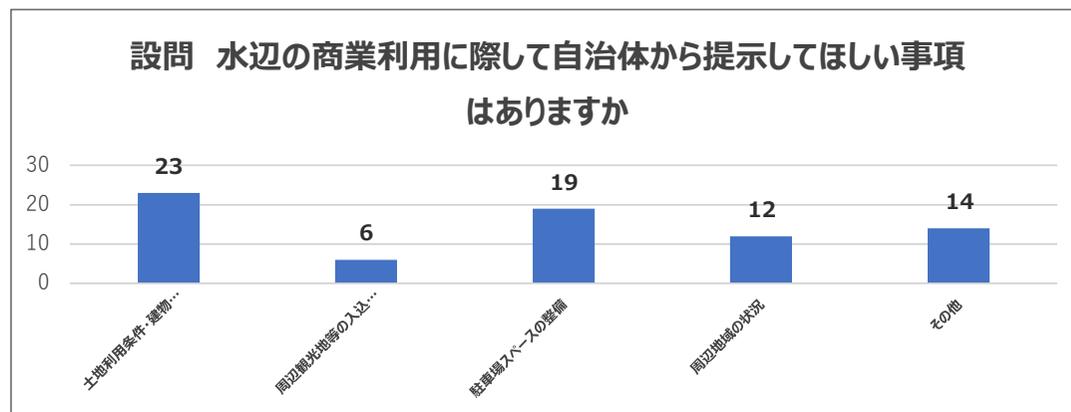
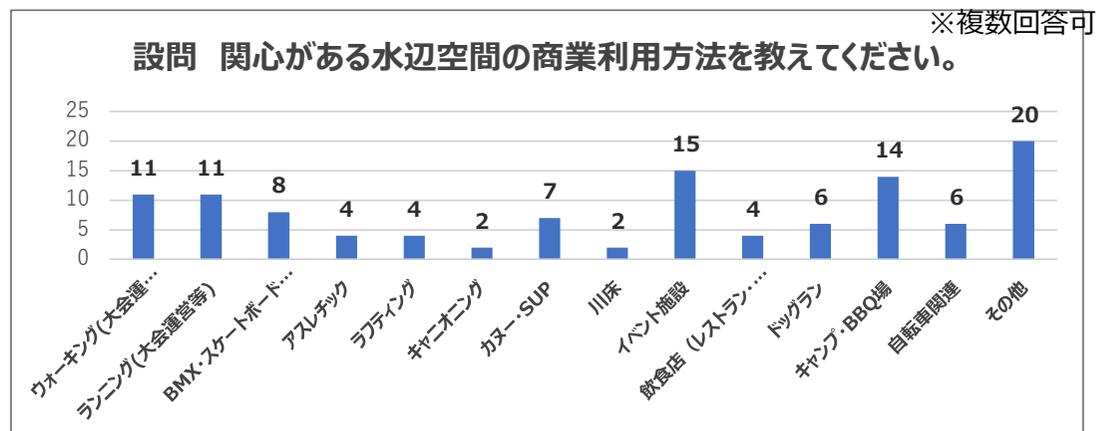
調節池の利活用に関する情報提供、意向ヒアリング

【来訪数】

3日間合計:66社

(1日目:19社 2日目:18社 3日目:29社)

図:ブースの様子

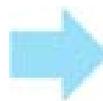


BBQ等のアウトドアやレジャー施設、スポーツ大会等のイベント会場として広大な調節池に関心を持つ民間事業者が多く存在

ワークショップ開催

【第1回WS:9月2日】

レジャー・アウトドア・スポーツ関連の民間事業者6社が参加し、活用に向けたアイデア案や取組方法について意見交換を実施。



【第2回WS:9月2日】

民間事業者4社が参加し下忍調節池を視察した後、埼玉県・行田市と現況確認や意見交換を実施。



図:第2回ワークショップ(下忍調節池現地視察会・意見交換会)

PT活動のまとめ

WS開催結果

民間の関心

広大地を比較的安価に利用できることから、アウトドア・レジャー施設運営やイベント会社のニーズは多い

活用制度の周知

自治体・民間ともに、どのような流れで活用検討が進み事業化するか、プロセスを知る機会が少ない

情報提供

民間が参入する際の土地利用条件やインフラ整備状況、周辺環境(マーケット)に関する情報が不足

マッチングの機会

活用を促進したい自治体と民間の情報共有・意見交換の場が少なくマッチングに時間がかかる

今後の提言

自治体向け支援プログラム

調節池を有する自治体が、地域に適合する形で活用や保全手法を検討、実装するための**伴走支援プログラム**を構築。

土地利用・インフラ整備に関する基本見解を整理の上、プログラムを通じて普及を促進。

マッチングプラットフォーム

活用を行いたい自治体と民間事業者のマッチングを支援する機会を提供。調節池の基本情報掲載や**マッチングイベント・実地視察会の開催**を通じて、新設または契約更新を迎える調節池に対する民間事業者のアクセスを確保。

利活用検討フロー

自治体や民間事業者が利活用に必要な手続き・手順を理解し、迅速に対応できるように、既存の水辺deベンチャーチャレンジ規定をベースとした**フロー表**を作成。併せて他地域の利活用検討に関する事例を掲載することで横展開を促進。